

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月4日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力、他者とかかわる力、社会貢献力、自己形成能力
学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。目標が達成できていないものについては、取組の進捗状況を細かく把握し、課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果、城北中学校区は、概ね県平均を上回っている。また、校区共通で取り組んだことで、「家庭学習の定着」や「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきているが、自分から進んで行うことにはまだ課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒 (J) (H) (K)
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組</li> <li>毎月15日にあいさつデーとして校区合同挨拶運動の取組</li> <li>中学校のテスト期間に合わせて家庭学習頑張り週間とノーメディアデーの取組</li> <li>合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」発表会の取組</li> </ul>

III 自校

ミッション
夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成

学校教育目標
自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査では、全国平均を上回った。</li> <li>学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。</li> <li>「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎・基本」定着状況調査では、3教科とも県平均を上回ってはいたが、基礎的な学力を確実に定着させていく必要がある。</li> <li>「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、73.9%(県67.9%)である。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	主体的に学ぶ力	思考力	表現力	他者と関わる力
めざす子ども像	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向けて、目的や意図に応じて論理的に考えようとしている。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。

研究	教科等	社会科 外国語活動
	主題・内容等	ともに考え 学び合う授業の創造 ～J(じっくり考える) H(はっきり表現する) K(くり返し挑戦する)を踏まえて～
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主体的な学びになるよう、板書計画を立て授業の工夫を行っている。㊦</li> <li>② 自分の考えをまとめ書く時間や考えたことを練り合う場面を確保し、手立てが設定されている。㊧㊨</li> <li>③ グループやペア等の活動を通して他者と関わり合う場面が設定されている。㊩</li> </ul>

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 <sub>セ</sub> 達成 <sub>評価</sub>	改善方策	□指標に係る取組状況	力 <sub>セ</sub> 達成 <sub>評価</sub>	総合 <sub>評価</sub>	改善方策		
3	自ら考え学ぶ生徒の育成と基礎学力の定着	★	継続	①授業改善を図り、基礎基本の学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な授業づくり研修会を実施する。(導入, ねらい, 主発問, 振り返り)(年3回以上)</li> <li>帯タイム(スキルタイム)で, 漢字・ことば・計算問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語, 算数の単元テストの通過率を, 90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を意識した実践的な授業づくりは, 外国語活動(各学年1回), 社会科(5・6年)1回実施。</li> <li>帯タイムは, 週単位で計画的にできた。</li> <li>単元テスト通過率は, 国語89.3%, 算数89.5%, 平均89.4%だった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業反省会で導入, ねらい, 主発問等の協議を行い, 主体的に授業改善を行う。</li> <li>帯タイムだけではなく, 宿題においても, 各学年で課題となる単元を中心に反復練習を行う。</li> <li>国語科では自分の考えを制限字数内に書いたり, 算数科では条件付きの問題に取り組ませたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を意識した実践的な授業づくりは, 外国語活動(各学年2回), 社会科(3・4・5・6年)1回実施。</li> <li>帯タイムは, 年間計画通りに実施できた。</li> <li>単元テスト通過率は, 国語89.7%, 算数88.5%, 平均89.1%だった。</li> </ul>	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点単元を中心に, 教材研究ノートの作成とねらいに迫る発問・指示の工夫を行う。</li> <li>○自分の考えを条件付けや順序立てて記述した後, 伝える場面を適宜設定する。</li> <li>○関わり合う場面, 表現する場面でペア・グループ学習を計画的に取り入れる。</li> </ul>
				継続	②家庭学習の習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんばり週間を実施する。(年5回)</li> <li>家庭学習の手引, 自主勉強のすすめ, がんばりカードの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定時間以上家庭学習する児童を95%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんばり週間は, 3回実施。(1学期2回, 2学期1回)</li> <li>設定時間以上家庭学習を行った児童は, 91.5%であった。</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で手本となる自主学習を掲示し, 自主学習に対する意欲付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習がんばり週間は, 5回実施。(1学期2回, 2学期2回, 3学期1回)</li> <li>設定時間以上家庭学習を行った児童は, 94.2%であった。</li> </ul>	3	3	4

3	主体性の育成	★	継続	主体的に考え行動できる児童にする。	縦割り班掃除を実施する。 (振り返りカード)	・縦割り班掃除において、そうじ名人を90%以上にする。 ・プラス1掃除ができる児童を80%以上にする。	・1学期の縦割り班掃除をおこなった。そうじ名人は95%であった。 (プラス1掃除を含む)	3	3	・2学期の縦割り班掃除では、各クラスごとにレベルアップの目標を立て、やるべきことをはっきりさせる。	・2学期の縦割り班掃除ですべての班がレベルアップの目標を立て、そうじを行った。そうじ名人は97%であった。(プラス1掃除を含む)	4	4	4	・縦割り班掃除で「時間いっぱい・無言・プラスワン」そうじができるようになったので、学級そうじでも持続させる。
			継続	規範意識を高める。	・児童会目標を設定し、振り返りカードを活用する。 (毎月)	・学校のルール(あすなる4項目)を守っている児童を93%以上にする。	・学校のルール(あすなる4項目)を守っている児童の平均は94.3%であった。 ・あいさつ名人缶バッチをリニューアルし、良いあいさつの意識付けとした。 ・9・10月の生活目標を「おはようハイタッチ1日5回以上」とした。	3	2	・学校のルールあすなるの中で、達成率が悪い「ろう下歩行」87.5%である。2学期に児童会の生活目標で取り組み、全校87%であった。 ・あすなる4項目を守っている児童の平均は、94.1%であった。 ・あいさつのレベルを上げるために1・2月の生活目標を「元気におはようハイタッチ」とし、全校へのあいさつの励行を促した。	3	3	4	・学校のルールあすなるの児童自身での振り返りと現実の姿との隔たりが課題である。児童会の生活目標で取り組みに組み込んでいくことを来年度も引き続き行う。	
3	たくましく生きる体力の向上		継続	目標を持って体力づくりができる児童にする。	・学年重点目標を設定し、課題改善に取り組む。	・新体力テストにおいて、県平均を上回っている項目を75%以上にする。 ・体育の時間における各学年の重点取組を100%実施する。	・新体力テストにおいて県平均を上回る項目は、68%だった。 ・学年重点目標に基づいた運動を体育の時間のウォーミングアップとして行い、体力改善に	2	2	・各学年の進捗状況を確認し、引き続き課題解決に向けた取組が100%実施できるようにする。 ・縄跳び検定や持久走練習等、全校の取組で、学年を超え、お互いの動きを見あうこと	・各学年の学年重点目標実施状況は、100%を達成することができた。 ・持久走練習やなわとび検定などで、異学年間の応援や、休憩時間の交流などが行われて、体力向上への	3	3	4	・各学年の進捗状況確認を引き続き確認して、次年度に引き継ぐ。 ・来年度の新体力テストに向けて各学年の課題を次年度に引き継ぎ、取組を継続する。

							取り組んだ。			で、体力向上への意識を高める。	意識が高まった。				
3	授業力の向上	★	継続	自ら考え学ぶ授業を創造する。	・つきたい力を明確にした授業実践を行う。	・各学年、単元計画を立て(重点単元)授業実践する。	・各学年、学力調査等の分析をもとに重点単元を設定し、授業実践を行った。	3	3	・重点単元を観察授業や研究授業に組み込み、成果と課題を共有し、実践していく。	・各学年、重点単元を中心に授業実践を行い、カリキュラムマップの見直しを行った。	3	3	4	・次年度に向けてカリキュラムマップの見直しを行い、重点単元を意識した授業実践を行う。
2	地域貢献できる児童の育成		継続	地域とつながる教育活動を行う。	・積極的に地域と関わるができる児童にする。	・地域行事への参加(一人2回以上100%) ・各学年、地域教材、地域人材を活用した実践を行う。(年1回以上)	・1学期の地域行事への参加1回以上は93%(未参加12名)であった。 ・地域教材、地域人材を活用した学年は、8学級中2学級であった。	3	2	・2学期の地域行事を紹介し、1回以上参加させる。 ・各学年、カリキュラムマップに沿って、地域教材、地域人材を活用した実践を行う。 ・6学級については、3学期末までに実施予定。	・2学期までの地域行事に1回以上参加の児童は95%(未参加10名)であった。 ・全学年、カリキュラムマップに沿って、地域教材、地域人材を活用した。	3	3	4	・次年度に向けてカリキュラムマップに地域教材、地域人材を活用した計画を立て、実践する。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。